

インドネシアはなぜ非同盟を選択するのか

ブラボウォ・スビアント国防相の発言

[General Retd Prabowo Subianto Minister of Defense Indonesia As Delivered \(1\).pdf](#)

各国の国防相が参加してシンガポールで6月10～13日に開催された第19回アジア安全保障会議（シャングリア・ダイヤログ）では、対中国やロシアで連携を促す日米の呼びかけにたいして、距離をおいて「中立」を保とうとするASEAN（東南アジア諸国連合）諸国の姿勢が目立ちました（6月12日付朝日新聞）。

以下は、11日に演説したインドネシアのブラボウォ国防相の発言全文です。



このような重要なフォーラムに再びお招きいただき、ジョン・チップマン博士と国際戦略研究所（IISS）にまずお礼を申し上げたいと思います。これほど多くの著名なリーダーの方々にお集まりいただき、大変光栄に思いますし、少し畏れ多くも思います。また、フランス軍の新大臣に就任されたセバスチャン・ルコルヌ氏にお祝いを申し上げたいと思います。彼は私より少し若いです。日本の岸信夫防衛大臣閣下、ン・エンヘン閣下、テオ・チャー・ヒーン国家安全保障担当上級大臣、ならびにご列席の皆様。

この地域における地政学的競争にどう対処するかについて語るとき、私は多くの皆さんに、そして東南アジアの兄弟たちはもちろんですが、東南アジア、実際にはアジアが、何世紀にもわたって帝国主義、大国による支配、搾取、収奪の交差点であったことをぜひ思いおこしていただきたいと思います。第二次世界大戦の結果、新たな独立運動が噴出しましたが、こうした独立運動、帝国主義や植民地主義に対する戦いは、何百年も続いていたのです。インドシナの兄弟たち、フィリピンの兄弟たち、インドの兄弟たち、アジア太平洋の多くの地域の兄弟たちの経験から、私たちは、賢明で慈悲深いリーダーシップが必要であることを非常に強く認識しています。私たちは、大国間の競争から最も大きな影響を受けています。

そのため、私たちの経験では、過去 40 年から 50 年の間に、これらの課題を解決するために、私たち独自のアジア的な方法確立してきました。支配され、奴隷にされ、搾取されてきたという共通の経験から、私たちは今、平和的な環境をつくるために努力しなければならなくなっているのです。友好的な環境です。 私たちには相違点があり、領土の主張が対立しています。現在でも、マレーシアの兄弟とは領土をめぐる違いがあります。私たちはベトナムと領有権の主張を競い合っています。他の国や中国との間にも相違があります。しかし、私たちは、理解やコミュニケーションの努力をしなければならないと考えております。そして、かつてのライバル、かつての敵が、対立などの悪い経験をしながらも、それらを解決してきたことを世界に証明したことを誇りに思っています。私たちは、おそらく 50 年近い平和と、50 年間の友好協力関係を達成し、繁栄を実現することに成功したのだと思います。

ですから、現在の国際的な動向を目の当たりにして、私たちは非常に心配しています。そうです。ヨーロッパで、ウクライナで起きていることは、とても悲しく思います。それは遠く離れているように見えますが、私たちは直接影響を受けています。食糧問題、エネルギー問題です。私たちはわかっています。世界の既存勢力と台頭する勢力との間の競争も理解しています。しかし、アジアでは、中国は何千年にもわたってずっと大国でした。私たちの社会、文化は中国やインドから大きな影響を受けています。国の偉大な宗教は、インドや中国からきたものです。ですから、私たちは、すべての大国を尊重するよう常に

努力しています。インドネシアにとって、私たちの立場は非常に明確です。私たちはすべての大国を尊重し、自国の空間と権利が尊重されることを必要としているすべての大国を尊重します。ルールに基づく国際秩序を支持します。なぜなら、大国に依存した秩序から最も大きな影響を受けるのは私たちだからです。私たちには、植民地化された経験、搾取された経験が常に潜在意識としてあるのです。

そのため、インドネシアは非同盟を選択しました。いかなる軍事同盟にも加わらないことを選択したのです。こう言うと、私たちが塙の上に座っているように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。これは意識的な決定なのです。なぜなら、この地域のすべての隣国とすべての大国の利益を尊重することは、私たちにとって必要不可欠だからです。私たちはASEANの仲間とともにそれを達成し、今回の状況でもそれを貫こうとしているのです。私たちは、大国の指導者たちが、その肩に大きな責任を負っていると確信しています。中国の指導者たちは、知恵と博愛をもってその責任をはたすだろうと確信しています。なぜなら、それは彼らの哲学的な教えだからです。孔子をはじめ、中国の偉大な哲学者たちは、権力とリーダーシップには常に博愛の精神が必要であると教えてきました。

ですから、私たちはいまなお楽観的です。米国を尊敬しています。米国は、実際は反植民地主義国であることをはっきりと示しました。彼らは、植民地主義に反対して戦った最初の英植民地の1つでした。独立をめざす私たちの闘いを支援しました。支援してくれた友人たちのことを私たちは決して忘れません。オーストラリアもまた、私たちの独立を支援してくれました。私たちは今、友好的な国々に囲まれているという幸運な状況にあるのです。そして、このことが私たちの弱点の一部でもあると思います。友好的な国々に囲まれているため、時としてエリートが自己満足に陥ってしまうことがあるのです。優しい人々に囲まれていれば、状況はいつも友好的で良い結果になりそうだと思ってしまいます。ウクライナ情勢が教えてくれたのは、私たちの安全と独立は決して当然視してはいけないということです。

ですから、私たちは防衛を強化することを決意していますし、それこそがキーワードなのです。私たちの展望は防衛的なものです。私たちは、あらゆる手段

を用いて自国の領土を防衛すると表明しています。そして、隣国の例や世界の情勢から学びました。ベトナムの人びとは30年間にわたって植民地主義と英雄的に戦いました。また中国は、長年にわたって侵略と外国からの介入と戦いました。私たちはこれらの国々を尊敬しています。

時間が限られていますので、これ以上深入りしないことにします。私たちが直面しているすべての課題に対して、私たちは楽観的であると申し上げて、私の発言を終わりにしたいと思います。知恵、合理性、常識が勝つと確信しています。

（了）

【翻訳 田中靖宏】